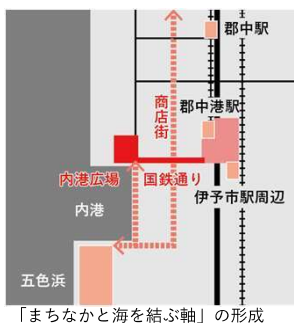


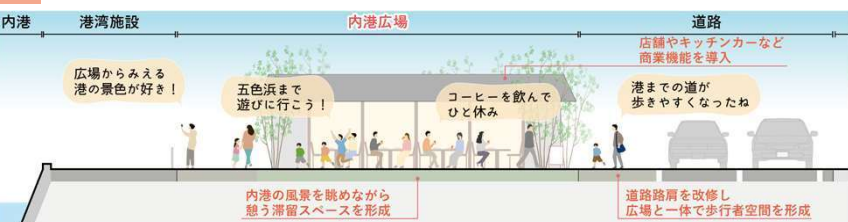
4-4 ステップ②：駅「まちなかと海を結ぶ軸」を形成

ステップ② 内港をまちなか回遊の拠点、国鉄通りをウォークアブルな街路に再編し「まちなかと海を結ぶ軸」を形成

- 内港は、駅から訪れた人が最初に海と出会う場であり、貴重な地域資源である五色浜へ回遊を広げる上でのアンカーとなり得る場です。内港を海側へつながるまちなか回遊の拠点として再編します。
- 合わせて国鉄通りのウォークアブルな街路に再編を検討し「まちなかと海を結ぶ軸」の形成を図ります。
- 「まちなかと海を結ぶ軸」の形成の波及効果として、五色浜や商店街への人の流れをつくります。



C 内港広場



■地に愛される港町らしい景観

- 国鉄通りの海側に位置し、現在は県管理の港湾施設として利用されています。
- 内港の船溜まりの風景は、かつて写生大会で描かれるなど、古くから住民に愛されてきました。



■商業・滞留機能を備えた港の広場

- 回遊行動の乏しいまちなかと五色浜をつなぐ拠点として、港町らしい景観を活用し、商業・滞留機能を備えた広場の整備を検討します。
- マルシェなどイベントの受け皿として活用します。
- 施設管理者である愛媛県と協議・調整を図ります。



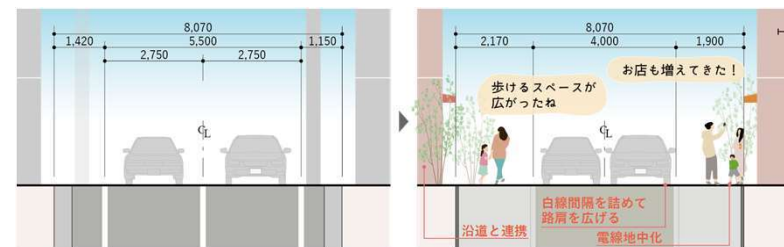
D 国鉄通り（県道郡中港線）

■駅とまちを結ぶシンボル軸

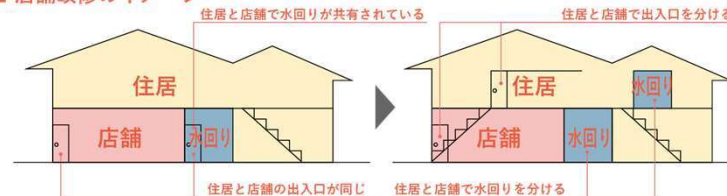
- 駅と海を結ぶ国鉄通りは、県管理の道路です。
- 駅側の商店街はかつて多くの人が行き交う場所でしたが、現在は回遊行動が乏しい状況です。

■ウォークアブルな道路空間への再編

- 車両交通量が少ないことも踏まえ、車道を双方向通行が可能な1車線に縮小し、歩行者の通行する路肩を広げる道路空間への再整備を検討します。
- 車線の縮小に加え、信号の撤去や舗装の高質化など、車両の速度抑制・安全対策を検討します。
- 歩行者の通行を妨げる電線の地中化を検討します。
- 道路管理者である愛媛県、沿道住民などと協議・調整を図り、社会実験の実施も検討します。



■店舗改修のイメージ



■マッチング体制のイメージ



■空き店舗の改修による活用の推進

- 空き店舗において住居・商業の機能を分離し、店舗として活用しやすい建物への改修支援を進めることで、歩いて楽しい空間形成を図ります。

■借り手と貸し手のマッチング体制の構築

- 空き家・空き店舗の所有者と、利用を望む出店希望者とのマッチング体制の構築していきます。
- 商工観光課やNPO法人空き家サポート伊予などの関係機関との連携を図ります。

■チャレンジショップとの連携の強化

- 商店街側で出店希望者の受け入れ態勢の整備とともに、町家をはじめとする現状のチャレンジショップ等の取組を見直し出店希望者がチャレンジショップを経て、まちなかに出店・展開していく仕組みの確立していきます。